

「コロナ過の状況の中で」

秋田県スキー連盟 会長 佐藤 英樹

私が初めてスキーを履いてから、60年が過ぎた。これまで秋田県で開催される公式のスキー大会は、過去の歴史を調べても雪さえあればどんな悪条件でも中止したことはなかった。それがどうだろう、この冬は事情が違った。目の前に雪がありコース状況も万全に仕上がっているのに「人の命と健康を守るため中止だ」と言われても、やるせない気持ちでいっぱいでした。

一昨年、最初に中国の武漢で確認されたと言われている新型コロナウイルス感染症は1年半が経過し、ワクチン接種が始まったものの勢いは衰えず、変異株の出現で今後の状況が見通せなくなっています。

昨シーズンは、インターカレッジと国体の連続開催に挑もうと準備を進めたものの、コロナ過でFIS公認ワールドカップフリースタイルスキー秋田たざわ湖大会など3大会とSAJ公認第76回国民体育大会冬季大会スキー競技会を含む8大会が、残念なことに中止に追い込まれました。理由は大会毎に異なりますが、いち早く中止発表したのが3月上旬に予定していたワールドカップでした。県及び仙北市並びに県スキー連盟による組織委員会と、全日本スキー連盟との協議での決定でした。コロナ過での大会運営は、選手はじめ大会関係者や住民の皆様にとって安全安心な大会を開催することが困難であるという判断からでした。続いて日本スポーツ協会は、2月18日～21日の日程で開催が予定されていた「美の国あきた鹿角国体」の中止を全会一致で決定しました。この頃、1月に入り、秋田市内ではクラスターが発生し、医療崩壊が懸念され、第1回大会（北海道・長野）以来74年ぶり2度目。当時の記録では大雪で輸送に支障をきたしたからと記憶に残っています。

今日まで、スキー競技は大自然を相手に数々の苦難を乗り越えて普及してきた経緯は承知していますが、感染症のパンデミックが原因で中止せざるを得ない事態になるとは想像しませんでした。しかしながら、ここで嘆いてばかりはいられない。この困難を乗り越えてこそ秋田県スキーの新しい未来があると信じて、来季の開催に向けて進みましょう。

最後になりましたが、鹿角国体に標準を定め、努力を積み重ねてきた選手・監督、スタッフそして関係の皆さんには、開催県の会長として力及ばず第76回鹿角国体の開催ができなくて大変申し訳なく心からお詫びを申し上げます。幸い本県では来年の第77回スキー国体と第95回全日本学生選手権大会が開催される予定ですので、2年分の熱い思いを込めて安全安心な環境の中で大会運営ができますよう会員の皆様とともに努力して参ります。